

平成 26 年 5 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 26 年度第 4 回

木の五衰

今朝は 8 時からの山崎先生の棒術の稽古に参加したいと思って、北千住 6 時 3 分発の電車に乗りました。ホテルを出ていつもの道を歩いて北千住の駅に着くと、6 時前ですから入口が閉まっているのです。開いている入口を探し回って、やっと見つけて入りました。その時考えたのですが、人間は成功体験を疑いもなく受け入れていると、ちょっと勝手の違ったことには当惑するのですね。例えば、あちこちにお店を出店して事業を展開しているとします。この時は順調にいったという成功体験が詰まっていると、まるで違う観点でお店を出している会社とぶつかり合った時に、自分の判断基準で「相手もこうするだろう」と思うと、とんでもないことになるかもしれません。成功体験に基づいた動きばかりをしていると、3. 1 1 のような想定外のものが来た時には、まるっきり視点を変えさせられます。ですから時々こういう経験が必要なのではないかと思えますし、無ければ自分でそういう機会を作る必要があるでしょう。

私は人からマイペースだと言われます。マイペースは悪いことではないと思っていますが、途中どこかで自分自身の棚卸しをしなければいけないと思っています。見直しです。例えば、今朝の朝稽古に時間を間違えて終わる頃に来られた方がおられました。人さまと約束した時などは物忘れをしたり、勘違いの思い込みをすることがありますから、確認する癖をつけた方がよしい。自分自身が正しいと思っていても、意外と違うことがあります。成功体験と同じように、必ずチェックする必要があります。

本日は、津久井会員さんの息子さんが初参加されています。以前、津久井さんのご主人に「木の五衰」という話を致しましたので、息子さんにも紹介したいと思えます。安岡正篤先生の『一日一言』（致知出版社）の中の「8 月 9 日」に書いてあります。本を回覧致しますのでご覧ください。

木の五衰とは、

1. 懐の蒸れ

2. 裾上がり
3. 末（うら）枯れ
4. 末（うら）止まり
5. 虫食い

こういう順番で木は弱っていく。これは人間にも通じるものであると安岡先生は説明しておられます。津久井さんは木を扱う仕事をされておられますが、こういう順番でよいですか？

これを実際の人間に当てはめるわけです。

1. 懐の蒸れ・・・木が成長して枝葉がぐんぐん生い茂って、風通しが悪くなる状態です。人間で言うと、すごく儲かって順調に見える。しかしだんだん欲が出て、鼻が高くなってきます。

2. 裾あがり・・・木の根っこは普通、木の高さと同じくらい深く張っていますが、その根が上がって浅くなり、木が弱ってくる状態です。

人間も、人から聞いたりネットで見た知識だけで実体験をしていないと、どうしても根っこが浅い。私は何度か屋久杉を見に行っています。地元で屋久杉とは樹齢 1000 年以上の杉を言います。本州では 400 年、500 年経った杉は凄いと感じますが、屋久島の人には 1000 年未満の杉は「小杉」と呼んでいます。屋久島は雨が非常に多いので、やはり根の張り方が違うのです。ずいぶん前に南米コスタリカの原生林に行きましたが、うっそうと生い茂った大木はあるけれども、それらの木の寿命は 100 年と聞きました。根っこが張れないのだそうです。国によって、生活環境によって、木の根っこの張り方も違うし繁茂の仕方も違います。

少し硬い話になりますが、生活環境・自然環境はその国の民族の宗教心を決定します。イスラムの砂漠、ギラギラと照りつける太陽の下であれば、多神教は育たない。一神教しか生まれません。日本は緑が溢れ水が溢れる非常に住みやすい良い環境です。多神教が生まれるもとは、ここにあると感じます。

裾上がりというのは、根っこが張れない、裾が上がってしまった状態です。謙虚さがなくなると、札束で横っ面を叩いている間は人が寄って来るけれども、それが出来なくなった途端に人がすっと離れていく。人が消える寸前の状況です。

3. 末枯れ・・・根が上がって、だんだん先端の梢から枯れてくる状態です。人間でみれば、人が離れているのに気がつかないで、従来のものを維持しようとして虚飾を守ろうとする。安岡先生は「オッチョコチョイ」という言い方をしておられますが、要するに見栄っ張りです。会社で例えると、大黒柱が 1 本になってしまった、或いは無くなってしま

ったのに、柱が何本もあるように見せかけて経営している。だからちょっとしたきっかけがあれば一変に潰れてしまう状態、壮大なる自転車操業です。外側から見ればちゃんとしているけれども、中身は経営感覚のないトップの見栄っ張り、虚飾の塊という会社が非常に多いようです。

4. 未止まり・・・成長が止まってしまって、木がどんどん枯れてくる状態です。

傍から見ても、あの泥船に乗ってはいは危ないからと逃げだす人が続出する状況です。

5. 虫食い・・・最後は色々な害虫がついてしまって、いつ倒れるかという状態です。

悪い事ばかりやるようになり、悪友が増える。金目当てで集まってくる悪友がたくさんいる時は、虫食い状態でいつ倒れるかという状況だと思えばよろしい。身の回りを見て、今、自分にはどういう友達がいるか時々見直すとよいでしょう。自分を磨くような仲間がいるか、悪所通いを勧めるような友人はいないでしょうか。

先程、成功体験の話を致しました。成功体験だけにとりつかれていたのでは、小局しか見えません。ちょっと視野を広げて、＜普段と違うのだから、自分が覚えているのとは違うルールで動いているのかな＞くらいに、心にゆとりを持っていると大局が見えてきます。そういう気持ちを持っている人や会社が、この虫食いの段階でもぐんぐん発展していく。

何度も何度も繰り返し練習していく事によって、基礎が磨かれます。中斎塾フォーラムは、足るを知るという考え方で自分自身を見直しする、基本を反復訓練する場所だと思って戴きたい。木で言うと根っこづくりをする場所です。今勉強していることは、根っこを作るための動きをしています。決して枝葉を茂らせる話ではありません。我々は、まず根っこ作りを一所懸命やりましょう。

成功をイメージして眠る

では、恒例の質問を致します。ここ一週間でお聞きします。

○ ここ一週間、嘘をつかなかった方

手を挙げなかった方は、リップサービスをしたのでしょうかね。

○ ここ一週間、良い日が続いている方

比較的良い日が続いたなと思えばよいので、そうでない事があつたら縮小法でだんだんそれを減らしてゆけば良いのです。いい日が続くと、それが相乗効果になります。

○ ここ一週間、有難うと言い・有難うと言われることが多かった方

先程の木の五衰の＜虫食い＞の状態のように、お金をばら撒いているような時は「有難う」と盛んに言われます。気をつけなければいけません。

○ ここ一週間、健康法をよく実践した方

これは皆さん手が挙がりました。

○ 昨晚眠る時に、明日以降のことを過去形でイメージ出来た方

だんだん手を挙げる方が増えてきました。何かやりたい事がある。ただ、やりたいと思
って寝るのでは成功しません。＜やりたい事が出来た＞＜周りから褒められて嬉しい＞と、
満足する自分を想像すれば良いのです。

「達」か「聞」か

では、論語に参ります。本日は顔淵篇 20～21 です。

【二十】子張 問う。士 如何なるをか、斯れ之を達と謂うべきと。子曰く、何ぞや、
爾の所謂達とはと。子張 対えて曰く、邦に在りても必ず聞え、家に在りても必ず聞ゆ
と。子曰く、是れ聞なり。達に非ざるなり。夫れ達なる者は、質 直にして義を好み、言
を察して色を觀、慮りて以て人に下る。邦に在りても必ず達し、家に在りても必ず達す。
夫れ聞なる者は、色 仁を取りて行 違ふ。之に居りて疑わず。邦に在りても必ず聞え、
家に在りても必ず聞ゆと。

子張が尋ねました。「どういふことをすれば、達になりますか。」

子張は二十歳そこそこの若者です。有名になって皆に知られるようになりたいという願
望が根っこにあるので、達について間違っ
て捉えていると思い、孔子が反問しました。

「お前の考えている達とは、どういふものかね」

子張が答えました。「国のレベルでも評判が聞こえてくる。家にいても、近所から名声が
聞こえてくるような人です。」

孔子が答えました。「お前が言っているのは聞であって、達ではない。本当の達というの
は、心が正直で良心に従い、人に接する時は相手の言葉の意味を推察し、顔色から洞察し
て心持ちを理解し、よくよく考えて人に遜るものだ。そういう本物の人物は、国にあつて
も家にいても自然とその評判は伝わっていくと考えなさい。ただ有名になりたいという人
間（聞）は、表面上は仁を装っているけれども、行いはまるで逆のことをしている。その
行いに満足して疑問など持たない。だから国家にあつても評判がよく、家にあつても名声
が聞こえてくるのだよ。」

自分は「達」か「聞」か、自問自答してみてください。世間に名前が出るようになった
けれども、虚名が出ているのか、それとも実力が認められているのか、自分で考えるとよ

ろしいでしょう。

更に、国家レベルでも考える必要があると思います。今、国家を代表するのは安倍さんです。先日、木内孝顧問とお会いした時、「今、日本という国は非常に見下されている」と言っておられました。嘘ばかりついているからだそうです。安倍さんは、3. 11の後、「原発は完全に制御されているからご安心ください」と大見得を切ったけれども、そのあと制御されていないということが世界に喧伝されてしまいました。嘘つきの総理大臣が率いているから、日本はおかしな国だと思われている。実際、日本という国家の信用はがた落ちしているということでした。

日本という国が「達」なる国であれば、実力がどんどん広がって大した国になるけれども、嘘をついた国ということで虚名だけが広がっている。経済ではなくて、道徳で信用が落ちてしまったという感じがします。

【二一】^{はんち}樊遲 ^{したが} 従いて ^{ぶう} 舞雩 ^{もと} の下 ^{あそ} に ^{いわ} 遊ぶ。曰く、^あ 敢えて ^{とく} 徳 ^{たか} を ^{とく} 崇 ^{おき} む ^{まどい} 惑 ^{わかま} えん ^と ことを ^し 問 ^い う。子曰く、^よ 善 ^し い ^い かな ^と 問 ^う こと。事 ^{こと} を ^さ 先 ^き に ^う して ^う 得 ^あ る ^と を ^{たか} 後 ^あ に ^と する ^は、徳 ^{とく} を ^{たか} 崇 ^と ぐ ^に 非 ^あ ら ^ら ず ^や。其 ^そ の ^あ 悪 ^{あく} を ^せ 攻 ^め て、人 ^{ひと} の ^あ 悪 ^{あく} を ^せ 攻 ^む る ^{こと} 無 ^な き ^は、愚 ^{とく} を ^お 修 ^き む ^に 非 ^あ ら ^ら ず ^や。一 ^い 朝 ^{ちよう} の ^い 忿 ^{かり} に、其 ^そ の ^み 身 ^{わす} を ^も 忘 ^る ず、以 ^も つ ^て 其 ^そ の ^{しん} 親 ^お に ^お 及 ^よ ば ^ず は、惑 ^{まどい} に ^あ ら ^ら ず ^や と。

樊遲はこの時、十九歳。孔子から見ると、先程の子張は不真面目、樊遲は生真面目なお弟子さんだったようです。

皆さんにお聞きします。自分は真面目だと思う人・・・真面目だと思っている人の方が多いですね。しかしながら確信的な不真面目であれば、これはこれで面白いと思います。なぜなら今我々が学んでいる陽明学も、王陽明が朱子学に対して、「この学び方はおかしい、私は実行を重んじるのだ」と異を唱えたわけです。新しいものを作り上げる人、創業する人は、どこか不真面目な部分がないとなかなか良いものは出来ないという感じがします。

樊遲が孔子のお供をして雨乞いの舞台の下に行った時、言いました。

「人徳を高くして自分の心の中に隠れている悪い所をコントロールし、心の迷いを克服したいと思いますが、それにはどうすればよいでしょうか」

孔子が言いました。「お前は偉い、良い質問をするね。先ず仕事を一所懸命にやって、利益を得ることは後にする。その方が人徳が高くなるのではないかな。人の悪い所ばかりを見つけて攻撃するのは、その人の悪い心を増大する事になるから良くない。腹が立ってどうしようもない時、その怒りに我を忘れてしまうと、自分の親兄弟まで巻き込んでしまい

大変なことになるから氣をつけなさい。」

一朝の忿に、其の身を忘れて・・・この点、安倍さんはじめ政治家は大したものだと思います。テレビで見る限り、叩かれても叩かれても腹を立てません。安倍さんもオバマさんも夫婦で手を繋いで飛行機のタラップを降りてくる演出をします。実際は違っていても、仲良く見えますね。ヒラリーさんもクリントン元大統領の浮気が発覚した時に、賢夫人の格好をして上手に納めました。国のトップにいる人は一朝の怒りに身を忘れないようにしていますが、奥様はその上を行くと感じます。

「子曰く、善いかな問うこと」・・・孔子は樊遲を褒めて、話をしやすいようにしています。中齋塾フォーラムには新人さんが来ます。中齋塾フォーラムは入り口ですから、面白いなと思って何となく残ってくれる、それをフォーラムの入門編にしていけばよい。ですからなるべく面白おかしく、自然と分かるようなものにしたいと思っています。その中でレベルが上がり、学問的な体系的づけた話や、もう少し分析・追及していくものがよいという方に向けて、今年から新規講座を始めました。

明日は第二回新規講座で、唯識学の「十牛の図」について説明致します。「十牛の図」とは、悟りを得るまでの修行の過程を、尋牛（悟りを得たいと思う）・見跡（跡を見つける）・見牛（悟りを見る）・得牛（悟る）・牧牛（牛を手名づける）・・・という具合に、牛を連れ戻し飼い馴らすまでの過程を十段階に分けて説明したものです。中村天風先生は分かりやすいように古歌を引いて説明をしています。

新聞の読み方

本日ご紹介する本は、木内信胤先生の『私の宗教観』と『木内信胤語録』です。木内信胤先生は「アメリカはびっくりするような勢いで坂を転げ落ちるよ」と何度も話しておられました。それを踏まえて新聞を眺めましょう。

・国の借金残高 1025 兆円増加・・・5月10日の朝日新聞の記事です。以前は、「1000兆を超す！ 大変だ！」と言っていたのが、1000兆を超してしまったらベタ記事に近いような扱いとなり、ほんの少ししか書かれていません。もう誰でも知っているからということでしょうが、とんでもない話です。国民一人当たり 806 万円の借金を抱える計算になるというのですから、これもふざけるなと思います。私は借金をした覚えはありませんし、おぎゃーっと生まれた赤ん坊にまで借金を乗っけているのです。全くけしからんと思いますが、それを声高に叫んでいる新聞はありません。記者クラブから追い出されないように、

国が発表したものを丸ごと記事にしています。こういう記事は記者クラブの存在が書かされている部分だと私は思っています。ということは、そのうち記者クラブは無くなりますよ。日本の国がおかしくなってくると同時に、そこら辺から逃げ出すものが出るという気が致します。

・犠牲者 8 割が救命胴着・・・昨日の日経新聞夕刊の韓国のフェリー沈没に関する記事です。トップが悪いと、とんでもない結果になると実感します。犠牲者で救命胴衣を着ていた人が 245 人。救命胴着を付けて船室で待っているように船内放送があったから、指示を守って待っていたわけでしょう。そのまま沈没したから、子供たちは皆死んでしまった。「逃げろ！」と言えば、どれだけの人が助かっていたか。指示を出した船長は逃げて助かっている、おかしい国ですね。韓国では、「自分達は三流国家だと分かった」という論調が増えているそうです。

・集団的自衛権行使に 6 条件・・・10 日の朝日新聞です。安倍さんの私的諮問機関が、集団的自衛権の発動にあたっては 6 つの条件を設けるよう提案したという内容です。

新聞は色々な記事を比較対照しながら見る事が必要です。そうすると色々な情報が残りますから、一つの項目、例えば韓国フェリー沈没の記事を見たら、それをどんどん分析し掘り下げる。どうしてそうなったのか、<どうして…>をどんどん追及していくと、コア（本質）にぶつかります。本質にぶつかったあとは、歴史的に追いかけてみる。そうすると、似たような事件が沢山あります。論語の中にもこれを示唆するような文言がありました。「教育していない国民を戦わせる、これは国民を棄て去るということと同じだ」という文章です。この棄民という考え方が、そのまま韓国で実践されているのだと見えてきます。

ですから新聞の読み方は、本質は何かを見つける。それをどんどん追及・分析していくと、歴史が浮上して来ます。それが見えてくると今度は、全体的に色々な情報をすべて視野におさめて自分なりの判断が言えるようになります。